

利上げ休止を容認する結果となった米CPI

ポイント① CPI、前年同月比の伸び鈍化

米国では月初のFOMC（米連邦公開市場委員会）にて利上げが今回で打ち止めとなる可能性が示唆されたことで、市場では「6月会合で利上げの休止が実現できるか」を見極めるための材料集めが進んでおり、5月10日にはその重要な主材とも云える4月の米CPIが発表されました。米CPIは前年同月比4.9%の上昇、変動の大きいエネルギーと食品を除くコアCPIも同5.5%の上昇と、いずれも3月から伸びが鈍化しましたが、依然としてFRB（米連邦準備制度理事会）が物価安定の目標に掲げる2.0%の水準を大きく上回る結果となりました。

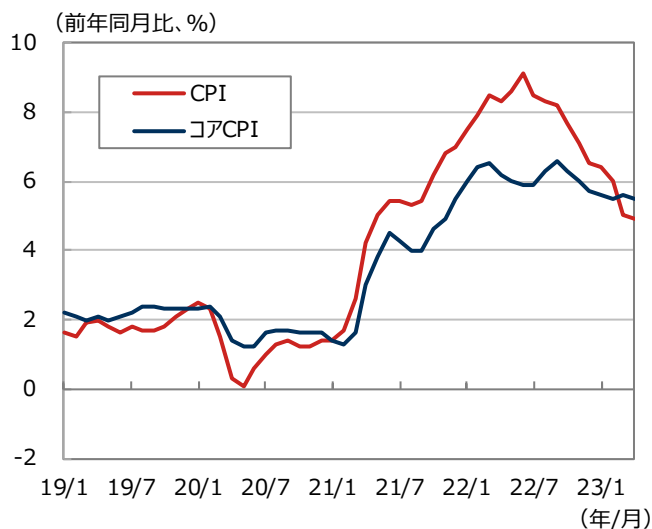
ポイント② サービスインフレに鈍化の兆し

対してCPIを前月比で見ると0.4%の上昇と、3月の同0.1%の上昇から伸びが加速しており、低下傾向にあったガソリンや中古車価格の上昇が同指数の伸びをけん引しました。ただCPIの約1/3を占める住居費は前月比0.4%の上昇と、過去1年余りで最も低い伸び率となったほか、一時高騰が続いていた電気料金や航空運賃も前月比で下落しており、サービスの一部項目でインフレの鈍化が目立った格好となりました。

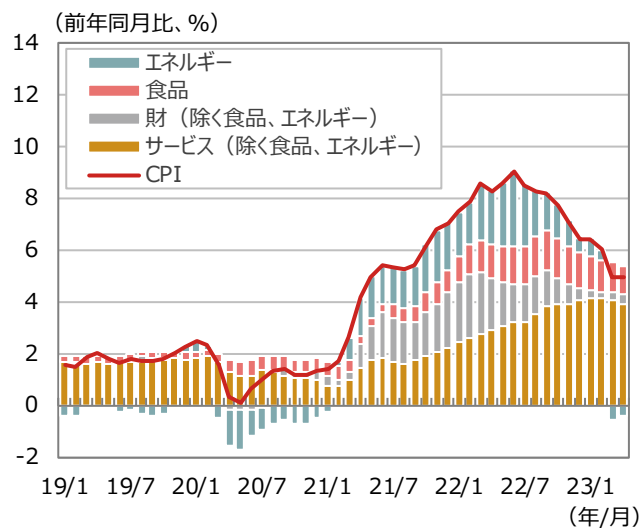
ポイント③ 市場の利上げ休止期待は上昇

市場では、CPIの前年同月比の伸びの鈍化を背景に、米金利に低下圧力がかったほか、円高・米ドル安が進行し、FRBの利上げの休止期待が高まる形となりました。他方で、一部では「年内の利下げ転換」を予想する声も聞かれますが、コアCPIが依然として高水準であることや、需要が供給に対して強い分野が健在することを鑑みると、利下げを意識することは未だ時期尚早であると考えています。

米CPI（消費者物価指数）の推移



米CPIの項目別寄与度の推移



重要 イベント

5月16日	米小売売上高、米鉱工業生産指数（4月）
5月24日	FOMC議事要旨公表（5月2-3日開催分）